

## 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：二戸市教育委員会

## (防災に関すること)

## I 想定される主な災害とモデル地域選定の理由

浄法寺小・中学校は、山間部にあり、二戸市の防災マップでは、土砂災害特別警戒区域内やそれに近い場所にある。しかし、教職員や児童生徒の防災に対する意識は高くない。浄法寺地区の自然災害の発生状況を踏まえ、防災に関わる講話や災害を想定した訓練等の学習及び活動を通して、児童生徒に対する防災に対する意識を高めさせたい。また、自然災害等から自他の命を守り抜く主体的に行動する態度を育成したい。以上のことから、浄法寺小・中学校をモデル地域に選定した。

## II 取組の概要

## (1) 事業の概要

## ア. 二戸市立浄法寺小学校

(ア) 震災被害から復旧・復興に携わった方々の努力と苦労を現地で体験的に学習することにより、自然に対する謙虚な気持ちと人々の努力の素晴らしさを感じる。

(イ) この経験を自分たちに照らし、生活を見直し改善していく意識を高めていく。

(ウ) 地域の特性を考え、起こりうる災害から身を守る力を高めていく。

## イ. 二戸市立浄法寺中学校

(ア) 防災教育・災害等の想定訓練を通じて、災害から身を守る知識や技能を習得することを目的とする。

(イ) 地域の特性を考え、土砂災害・水害・地震災害が同時に発生する想定外の災害訓練を実践する。

## (2) 事業の取組内容

## ア. 二戸市立浄法寺小学校

(ア) 教職員研修（年間計画等の確認）

(イ) 保護者に対する本事業の説明及び周知  
(PTA総会にて)

(ウ) 第1回避難訓練（火災）

(エ) AEDを用いた心肺蘇生法研修会  
(4・5学年 児童及び保護者)  
講師…二戸消防署浄法寺分署救急隊

(オ) 震災被害地訪問学習（4年生）

訪問地…野田村十府ヶ浦海岸  
もぐらんびあ水族館

(カ) 第2回避難訓練（地震 予告なし）

(キ) 防災学習（授業参観）

a PTA講演会

講師…越野修三氏（岩手大学防災  
研究センター客員教授）

演題…「浄法寺町にひそむ災害」

b 防災・復興教育に係る授業公開

c 第3回避難訓練（引き渡し訓練）

(ク) 先進的実践校の視察及び伝講

(ケ) 取組のまとめ

## イ. 二戸市立浄法寺中学校

(ア) 教職員防災教育研修(全教職員で災害  
防災教育の推進を確認)

(イ) 熊本地震の募金活動(JRC委員会)

募金は7月に熊本の中学校に送金

(ウ) 第1回避難訓練（想定外訓練～大雨と  
地震・土砂災害を設定した訓練）

(エ) 災害に関わる授業実践①（社会）

(オ) いわたの復興教育副読本「いきる か  
かわる そなえる」の朝読書

東日本大震災の月命日（原則）に、  
全校で指定ページの読書

(カ) 資源回収

(キ) 震災学習列車体験（普代駅から久慈駅）  
列車内でガイドさんから、震災時の  
状況や体験、防災や被害の縮小に役  
立った話などを聞いた。

(ク) 祭りでのボランティア活動（希望者）  
災害時における自主的な支援体験

(ケ) 田老町での防災学習（3年生）

(コ) 防災学習の成果発表（3年生 文化祭）

(サ) 第2回資源回収

(シ) 第2回避難訓練

自動火災報受信機操作訓練、初期消  
火訓練、通報訓練、避難指示訓練、  
避難誘導・確認訓練等を実施

(ス) 災害に関わる授業実践②（理科）

### Ⅲ 取組の成果と課題

#### (1) 二戸市立浄法寺小学校

##### ア. 成果

- 「自分の命は自分で守る」ことの大切さを全職員が再確認しながら事業を進めることで、職員の防災教育意識が高まり、児童への日常の指導に生かされてきた。
- 保護者からの理解を得て、保護者とともに防災学習を進めることができた。
- 児童が、災害からの復旧・復興に携わる人々の気持ちを知ることにより、自分の故郷や日常の生活を見直していこうとの意識を持つことができた。
- 児童や教職員が、想定外の災害について知り、避難方法等について理解することができた。
- いわての復興教育副読本の一層の活用を図ることができた。

##### イ. 課題

- 岩手の復興への思いをもち、自己の伸長を目指す児童の育成に努めること。
- 今年度の成果・課題を踏まえ、次年度以降の防災学習の計画・推進を行うこと。

#### (2) 二戸市立浄法寺中学校

##### ア. 成果

- 実際の災害を想定した避難訓練や消防署と連携した避難訓練により、生徒の防災意識を向上させることができた。また、講師の講話により、生徒が、地域で起きた過去の災害や災害の予兆について理解することができた。
- 生徒が、いわての復興教育副読本を原則、月命日に朝読書することで、災害の実際について理解するとともに、防災についてより深く考えることができた。
- 震災学習列車に乗車し、説明を聞いたり、体験したりすることで、生徒が、災害に遭遇した際の新たな知識をもつことができた。
- 被災地である田老を訪問し、震災当時の状況や復興の様子を学習することで、生徒が「自らの生き方」「人との関わり方」「防災」についての考えを深めることができた。
- 理科と社会の授業で災害や防災と関わらせた授業実践を行うことで、生徒が、災害や防災についての知識を得ることができた。

##### イ. 課題

- 万が一の場合に、生徒全員が個々に正しい判断をし、主体的に望ましい行動がとれるよう、学校生活全般にわたって防災に触れること。
  - ・知恵や知識の習得
    - ① 掲示物（防災の知恵や知識について生徒会活動で作成）
    - ② 朝の会や帰りの会で新聞記事等を紹介（復興担当→各担任へ）
  - ・正しい判断をさせるための訓練
    - ① 各教科の該当単元において、生徒に考えさせる場面を持つ。（各教科担任は該当単元を明らかにしておく）
    - ② 保護者の協力を仰ぎ、地域の災害時について教えていただく。  
(アンケートや講話)